

講義名	対)19～経済情報処理 /15～経済情報処理			授業形態	
担当教員	森澤 龍也	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要
 現実の経済について論じるときには、単なる思いつきや現実の動きを無視した議論を避け、証拠（データや資料）に基づいて議論することが重要である。また、効果的な情報伝達（プレゼンテーション）を行うことで、伝えたい内容を相手に的確に伝えることが必要となる。この講義では、PC教室での実習を通じて、経済分析を行うために基礎となる情報処理能力の修得を目標とする。

到達目標
 (1) 表計算ソフト（エクセル）の基本的な操作方法（データの入力・計算、表・グラフ作成、関数貼り付けなど）を身につけることができるようになる。
 (2) ワードプロソフト（ワード）文書の基本的な作成方法（プレゼンテーション資料の作成、表・グラフの貼り付けと整理など）を身につけることができるようになる。
 (3) 経済学の基礎的な概念（単利・複利・割引現在価値など）を習得することができるようになる。

提出課題
 講義時間中に実習課題を提出する必要がある。また、講義期間中に中間確認演習・最終確認演習を実施する。一部講義回にて反転授業を実施する予定である。課題・反転授業は教科書を使用するので、準備しておいてもらいたい。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
 「確認課題と解説」回において講評・解説を行う。

評価の基準
 講義中課題：35%
 中間確認演習：30%
 定期試験・最終確認演習：35%
 欠席（課題未提出）・遅刻は減点対象である。
 現時点では、対面式講義を前提に予定を組んでいるが、今後の状況次第では定期試験の代わりに最終確認演習を実施することも考えている。その場合は、最終確認演習は2回に分けて実施することになる。この点については、状況判断の見通しがつき次第、Ryuka Portalの掲示にて連絡する。

履修にあたっての注意・助言他
 PCの想定使用環境：Windows10PC・Office365（Windows向けのWord・Excel）使用にて講義を実施する予定である。履修希望者は、本講義を受講するまでに、上記と同等の端末・ソフト環境を準備しておくことが快適な学習環境として望んでいることを認識しておいてもらいたい。
 当科目はPC実習科目であり、教室・設備の制約上、事前登録が必要な科目である。履修に当たっては十分に注意されたい。
 対面講義では、講義開始時に出席確認および教材ファイル配布をシステムにて行うので、講義開始直前に入室し、開始時点で自身のPCが使用可能な状況にしておく必要がある。遅刻者に対しては特に考慮すべき理由がない限り、教材を配布しないので、十分に注意されたい。
 出席重視科目である。また、講義時間外に各自より復習してほしい。
 講義中での私語は厳禁である。

教科書
 ・『レクチャー&エクササイズ金融論』、森澤龍也、新世社、2200円+税、9784883842223

参考図書
 ・参考文献については講義中に適時、紹介する。

その他
 担当者作成の教材ファイルを配布する。

授業計画
 1 経済情報処理序論
 2 Word文書の基本
 3 Word文書の基本
 4 中間確認演習
 5 グラフ作成の基本
 6 確認課題と解説
 7 グラフ作成の基本
 8 確認課題と解説
 9 中間確認演習
 10 表計算の基本：金利計算
 11 確認課題と解説
 12 表計算の基本：割引現在価値
 13 確認課題と解説
 14 最終確認演習（定期試験の実施を見合わせる場合は最終確認演習として実施予定）
 15 総復習課題の演習（定期試験の実施を見合わせる場合は最終確認演習を実施予定）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/>	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/>	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	<input type="radio"/>	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 ・予習 2時間/回×15回：教科書や情報検索などによって今回の講義範囲に関連する情報を収集し、要点をまとめておく。
 ・復習 2時間/回×15回：各回の課題をもう一度自分の力で解くことができるか確かめるとともに、教科書の再読、講義ノートの整理に取り組み、各回の内容に関する理解を深める。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
 経済情報学経済情報コース：
 DP(1) - との関連性：目標(1) - (3)を達成することで共通DPに貢献できる。
 DP(2) - との関連性：目標(1) - (3)を達成することで共通DPの「経済情報分析力」に貢献できる。
 経済情報学情報システムコース：
 DP(1) - との関連性：目標(1) - (3)を達成することで共通DPに貢献できる。
 DP(3) - との関連性：情報システムの仕組みを直接の考察の対象とはしていないが「情報処理能力、問題解決のための応用力を身につけることに貢献できる。
 経済学現代経済コース
 DP(1) - との関連性：目標(3)を達成することで共通DPの「これまでの学問的成果の基礎を身に蓄け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察」することに貢献できる。目標(1) - (2)の達成は直接貢献しない。
 DP(2) - との関連性：目標(3)を達成することで共通DPの「世の中の動きを理解」することに貢献できる。目標(1) - (2)の達成は直接貢献しない。
 経済学地域まちづくりコース：
 DP(1) - との関連性：目標(3)を達成することで共通DPの「これまでの学問的成果の基礎を身に蓄け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察」することに貢献できる。目標(1) - (2)の達成は直接貢献しない。
 DP(3) - との関連性：特に地域社会の諸問題に考察対象を特定していない。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
 適宜、質問・疑問点を募りながら、PC実習を行う。レスポンスを使用する予定である。

実務経験の有無及び活用
 実務経験なし

備考
 当科目は経済学部経済情報学の必修科目である。（経済学部経済学部の展開（選択）科目である。）
 受講に当たり、教科書を事前に準備されたい。
 対面式講義として開講する予定である。（2022年2月15日現在）
 ただし、新型コロナウイルス感染症の状況により上記の開講方式については変更の可能性がある。その際はRyuka Portalの掲示にて連絡するので、講義連絡を常に確認してもらいたい。また、開講方式変更の際のシラバスについては修正される可能性がある。